

前橋市の取り組み

園所・保育者、保護者、地域とともに



前橋市幼児教育アドバイザー

渡邊 俊

1 本市の幼児教育アドバイザー

○園所からの**多様なニーズ**に対応できるよう、幼児教育に関わる様々な経験や確かな専門性を有する外部有識者にアドバイザーを委嘱。

○平成30・31年度は16名

- ・幼稚園長、保育所長、小学校長経験者
- ・保健師経験者
- ・大学、養成校教員
- ・臨床発達心理士
- ・言語聴覚士
- ・子育て経験者
- ・子育てネットワーク代表
- ・療育施設施設長
- ・特別支援教育経験者
- ・教育相談員経験者

○まえばし幼児教育センターにおける研修講座や出前研修
出前相談等の「園所訪問」を行う。

「チームまえばし保育サポート事業」

2 チームまえばし保育サポート事業

〈本市の現状から〉

○市内にある幼児教育施設95園所のうち、私立が77%、73園所。
行政側からの「訪問」ではなく、園所からの依頼(要請)に応じて訪問する「出前方式」を浸透させたい。

○幼児教育アドバイザー派遣事業(抵抗感あり。自園の保育を否定されないか、一方的な指導への不安や心配がある。)

→ チームまえばし保育サポート事業(前橋の子どもをともに育てる一つのチームとしてサポートしたい)

〈対象〉

市内すべての公私立園所、公民館等、及び市内すべての幼児教育施設教職員

(保育全般、特別な支援を必要とする幼児に関わる指導、保護者対応、保幼小の連携、公民館子育て講話、遊び場指導員研修等)

〈内容〉

- 市立幼稚園3園を対象に、アドバイザーの担当園を決め、年間を通じて複数で継続的に訪問。(～30年度)
「市立幼稚園保育研究会」や幼児教育センター主催の「こども教育研修会」等の機会に、その取組や成果を発表し、アドバイザー活用についての情報発信をする。
(H30は、第8回こども教育研修会で実施)

○出前研修、出前相談の拡充

H28年度、福祉部子育て施設課と連携し、市内18の公立保育所への「園所訪問」を実施。(～30年度)

H29年度、生涯学習課と連携、公民館における「家庭教育学級講座」の「井戸端会議」「遊び場指導員研修」等を実施。

○幼児教育センター主催の研修会講師や指導助言者として。

* こども教育研修会

* 保幼小研修会

* 保幼小連携地区別ブロック研修会

(全体会及び18地区ブロック研修会)

○まえばし幼児教育充実指針

「めぶく～幼児の育ち～」作成に関わって。

* H28年度、まえばし幼児教育充実指針「めぶく」フォーラムのシンポジストとして参加。

* 出前研修や井戸端会議などで「めぶく」を活用。

○いきいきことば相談・ことば相談

・園所及び発達支援センターと連携し、ことばの発達に不安や心配のある保護者・幼児(年長)に面接相談を実施、その後、幼児教育アドバイザーが園所での生活や遊びの様子を把握し、保護者相談を実施。(～30年度)

チームまえばし保育サポート事業

幼児教育アドバイザーがうかがいます！



園・所での研修で...

たくさんのお申し込みをいただき、ありがとうございます！一例を紹介いたします。

【園内研修（講話）】

職員と一緒にアドバイザーの講話を聞きました。自園の保育で大切にしたいことについて、共通理解することができました。

【保育参観とカンファレンス】

保育の様子を見てもらいました。その後で、子どもへの関わり方、保育の進め方などについて、自分の考えを話したり、助言を聞いたりする中で、新たな視点にも気付きました。自分の保育に自信がもてるようになった気がします。

【園内研修（事例検討）】

保育の一場面から、子どもの姿の捉え方、環境の構成などいろいろな話が出て盛り上がりました。「保育を語り合う」って、おもしろいと思いました。

園・所の保護者集会・保育参観などで...

【子育て井戸端会議】

「めぶく」について話しました。みんなの考えが聞けて、テーマを決めて話すのもいいものだと思いました。

実技「親子で触れ合い遊び」

実際に体と体を触れ合って遊んでみると、すごく楽しかったです。子どもも喜んでいました。今しかできない親子の触れ合いを大切にしたいと思いました。

【講話「子どもへの絵本の読み聞かせ」】

アドバイザーの先生に絵本を読んでもらい、自分の心がふるえました。「絵本で、いいな・・・」と実感しました。気負わずに親子で絵本を楽しみたいです。

公民館の事業で...

【子育て井戸端会議】

自分の子育ての悩みを話したら、他のみんなも、子育てに悩んでいることを知りました。アドバイザーが体験談などを話しながら進行してくれました。また参加したいです。

【講話「子どもの育ち」】

幼児期にいろいろな経験をすることが大切だと実感しました。大人は笑顔で、待つ心を大切にしたいと思いました。そして、子どものよいところを見付けていきたいと思います。

【親子触れ合い遊び】

家ですぐに行える内容だったので、他の家族にも教えてあげたいです。一緒に参加した人と、親しくなれたのでよかったです。

幼児期から小学校へ、学びのつながりを考える中で...

【就学時健康診断での保護者への講話】

子どもが小学校に入学することを楽しみにできるようにしたいです。子どもの生活習慣をしっかり整え、ゆつたりと見守りたいです。

【小学校の授業参観後に協議】

幼児期にいろいろな経験をして、「やってみたい」「自分ではできるよ」「友達とやったらもっと楽しくなった」という気持ちを育てておくのが大切だと確認できました。アドバイザーの学びのつながりについて話が参考になりました。

【保育参観後に協議】

子どもは、0.1.2.3.4.5歳と、順に育ってきているのだというのが実際の保育を見て、アドバイザーの話聞くことで実感・納得できました。小学校では、この育ちや経験を引き継いで、指導していきたいと思いました。

3 アドバイザーの育成

(～30年度)

○幼児教育アドバイザーの資質・能力の向上

- 幼児教育アドバイザー会議
- 幼児教育アドバイザー研修
- 園所訪問研修

○次期幼児教育アドバイザーの育成

- 公立幼稚園教頭研修

4 今年度の取組

○市立幼稚園への継続的な訪問をなくし、必要に応じた要請に対応する

○公民館からの依頼は、各公民館年1回とする

○小学校から要請の多い就学を控えた保護者対象の講話は、県の幼児教育センターの事業を紹介している

○事前の打ち合わせは電話で済ませる

○ことばの教室を廃止し幼児教室で対応する

○アドバイザー研修は、実施しない

今年度のアドバイザーの活動（9月末）

○園所等からの要請による

	保護者対象 井戸端会議・講話	園内研修	気になる子への 対応	親子行事	園経営・保育全 般	合計
国公立幼稚園	5	3	17		1	26
公立保育所				5		5
私立こども園		2	3			5
私立保育園						0
認可外施設					1	1
公民館	4					4
遊び場指導員					2	2
合計	9	5	20	5	4	43

○地区ブロック全体会議講話 1回 ○こども教育研修会 3回

○いきいき言葉相談 4回 ○市立幼稚園採用教員研修 3回

合計 56回 ※H30 9月時点は112回

5 課題と解決策

○今年度は、予算が少なく、アドバイザー事業が激減した。

○私立の園所からの要請が少ない。

○公立幼稚園は、保育や園内研修にかかわる要請が定着してきたが、他の園所は、気になる子どもへの対応や保護者への対応・講話などの要請が主で、保育の中身についてはあまり扱われない現状である。

○組織のリーダーの育成が急務

研修に参加する保育者たちは学ぶ意欲があるので、リーダーとしての気づきを促す必要がある。

園組織の、チームとしての力量を高める。

- ◎気になる子どもについての要請が多いので、特別支援教育を専門とするアドバイザーと保育を専門とするアドバイザーがペアで訪問し、保育内容についても共に考えられる訪問にしていく。
- ◎園所訪問で、園とアドバイザーが互いに学んだ内容を、センターだよりやこども研修会などで広く伝えていくことで、多くの園所にアドバイザーの活用の有効性を感じてもらえるようにする。

「ほっとコラム」、励まし、反省、失敗、実践の意味づけ、具体的な方策など

- ・一人一人の学びの流儀を生かして
- ・カブト虫の観察画 ・カマキリの目
- ・やっぱり文字は教えたほうが・・・

◎認可外施設からの要請を受けて

◎さまざまな働き方の中での園内(施設内)研修のあり方を発信し、そこにかかわっていく。

- 夕方からの要請もOK
- 空き時間を使っての要請も有り
- 少ない人数で、集まれる人が集まるという研修もいい
- みんなで考えよう ちょっとした工夫が楽しい
写真の活用、ドキュメンテーション、メールの活用
- あなたやあなたがリーダーとなることができることからやってみよう

◎福祉部との連携を図り、福祉部の保育所（園）の巡回訪問にアドバイザーが同行し、保育について語り合うきっかけづくりをしていく。
（協議中）

◎3つある公立幼稚園の園内研修を合同で進める。

（来年度）

6 アドバイザーとして

- 各園が「何を求めているか」をとらえ、「何をすべきか」を考えていく。
- 保育者とともによりよい保育をつくることを楽しむ。
実践する保育者自身の主体性を促す。
- マネジメント
「保育の質の向上」にむけたチームづくり、リーダー養成の種まき。